

第1回川上ダムサブWG 結果報告・議事メモ

第1回川上ダムサブWG 会議 結果報告	-----	1
第1回川上ダムサブWG 会議 議事メモ	-----	3

第1回川上ダムSWG会議（2004. 8. 3開催）結果報告		2004. 8. 15 庶務発信
開催日時：	2004年8月3日（火）9：00～18：00	
場 所：	木津川上流地域および木津川上流河川事務所3階会議室	
参加者数：	SWGメンバー委員 6名、SWGメンバー外委員 5名 河川管理者 17名	
<p>1 実施概要</p> <p>① 現地視察 9:00～15:50</p> <p>② 意見交換会 16:00～18:00</p>		
<p>2 視察の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 JR木津駅集合 ・ 9:50～11:00 岩倉峡の状況視察（徒歩） ・ 11:00～12:30 上野市周辺の代替案（遊水地、越流堤等）を視察 ・ 13:00～13:40 木津川上流地域の代替案（遊水地、ため池等）を視察 ・ 13:40～14:50 川上ダムサイトおよび上流域の視察 ・ 14:50～15:20 川上ダム工事事務所からの説明及び桐ヶ丘団地の視察 ・ 15:50 木津川上流河川事務所到着 		
<p>3 意見交換会の概要</p> <p>木津川上流河川事務所到着後、視察をもとに委員および河川管理者との間で、意見交換が行われた。</p> <p>①視察の感想について</p> <p>※ 意見交換会の冒頭に、各委員より視察の感想が述べられた。主要な、意見・感想については、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代替案は、できるものについて優先順序を付けていくことが必要である。 ・ 上野盆地の家屋浸水の軽減が最大の目的であり、このための仕組みについて原点から考えていくことが必要である。 ・ 上野盆地は、川上ダム＋遊水地のみで水害を防ぐのは無理であり、服部川、柘植川についても積極的な治水対策を行うことが必要である。ダムはやむを得ない場合以外は、造らない方がよい。 ・ 遊水地は、農家や住民から見て本当に受け入れられるのかどうか考えさせられる。 ・ 農地を新たな遊水地として活用するためには、土地利用規制や農業側からの対応も重要である。 ・ 遊水地については、合理的な対策であり、地域の合意の上で整備する必要がある。 ・ 遊水地については、むしろ「洪水調整地」といった形で積極的に位置づけ、効率が上がる方向を考えていくことが重要である。 ・ 可能性としてダムを造らないとすれば、放水路が実現すれば最も効果が高いと感じる。 ・ 放水路については、大規模工事は避ける上では、積極的に賛成はできない。 ・ 代替案については、机上ではなく現地踏査を行い、真剣に検討してもらっていることを感じた。 ・ ボーリング調査などの結果については、わかりやすく説明することが必要。 ・ 代替案を検討している時期に、実際に現地を確かめることは、意義のあることだと感じる。 		

- ・豊かな自然を、ダムに沈めて良いのかと言うことが、素朴な疑問として感じられる。
- ・猪名川流域と比べると、木津川の方が対応の可能性が高いと感じられ、災害に強いまちづくりを実践してほしい。

②河川管理者との意見交換

※ 各委員からの感想が一巡した後、河川管理者からの発言も行われ、質疑がやり取りされた。主要な、意見・感想については、以下のとおり。(注 ・は委員、←は河川管理者の発言)

- ・新たな遊水地という考えは、当該地域の関係者から反発を受けることもあり、すべてが遊水地という考えで調整を図っていくことが必要である。
- ・校庭貯留については、周りが水田である学校では効果が期待できない。ため池については、実際にどれだけためられるか疑問である。休耕田については、少しでも活用すべき。
- ←代替案については、精度を上げるように努力したい。また、実効性にも留意したい。さらに、中間報告でも示したとおり、今後7つの観点(①効果、②環境への影響、③施設管理者の協力、④用地取得の見通しを含む工期、⑤産業活動への影響、⑥維持管理、⑦コスト)による評価を早急に進める必要があると考えている。
- ・魚道の遡上率が芳しくないようなので、全体的に総点検する必要があると考えられる。
- ・流域にはゴルフ場や新興住宅地多いので、シミュレーションの中でもチェックする必要がある。
- ←ゴルフ場等については、今後どう反映すればよいか検討していきたい。
- ・ゴルフ場については、排水抑制機能を担わせるという考えも必要であろう。
- ・水田に関しては、畦の嵩上げは農家の理解を得ることは難しいのではないかと。嵩上げではなく、排水方法を変えることにより、出水を遅らせることも可能である。
- ・農地の整備にはお金もかけており、関係者との調整が重要である。
- ←代替案の実現については、地域の権利を考えていくことは重要であると認識している。
- ・代替案の評価について、現状では定量的な説明に徹している感がある。
- ←今日は現地での説明用として定量的な話が中心となった。他についても提示し、議論頂く予定。
- ←ワーキングできっちりとした議論を行うためにも、委員間でも意見を確認してもらいたい。
- ・検討課題については、委員会内部で検討してから、河川管理者に投げる必要があると考えられる。
- ←代替案については、当然明らかにだめなものもあると考えられる。このようなものについては、委員会として適切なサゼッションをいただきたい。
- ・10月にはWGの意見を集約する必要があるため、最終的な検討結果が出ないことを想定し、検討を進めざるを得ないが、なるべく検討結果をWGへ提示できるよう努力をお願いしたい。
- ←河川管理者としては、先に触れられた評価の①～⑦を的確かつ早急に出していくことが重要であると考えている。
- ・今後、WG内部でも、河川管理者との対話時間と同じくらい時間をかけて、検討を行う必要があると考えられる。

以上

第1回川上ダムサブワーキンググループ視察・会議 結果概要

開催日時：平成16年8月3日（火）9：00～18：00

場 所：木津川上流地域および木津川上流河川事務所3階会議室

出席者：SWGメンバー委員6名

SWGメンバー外委員5名 河川管理者17名

1 実施概要

- ③ 現地視察 9:00～15:50
- ④ 意見交換会 16:00～18:00

2 視察の概要

- ・9:00 JR木津駅集合
- ・9:50～11:00 岩倉峡の状況視察（徒歩）
- ・11:00～12:30 上野市周辺の代替案（遊水地、越流堤等）を視察
- ・13:00～13:40 木津川上流地域の代替案（遊水地、ため池等）を視察
- ・13:40～14:50 川上ダムサイトおよび上流域の視察
- ・14:50～15:20 川上ダム工事事務所からの説明及び桐ヶ丘団地の視察
- ・15:50 木津川上流河川事務所到着

3. 意見交換会の概要

注) 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

・：委員の発言 ←：河川管理者の発言

①委員の感想

- ・新たな遊水地について、現在耕作している人や住んでいる人から見ると、本当に受け入れられるのかと考えてしまった。
 - ・ため池については、決壊すると、下流に影響を及ぼす恐れがあるので注意が必要だ。
 - ・代替案は、数字的に明確にした上で、できるものでできないものを明確にし、できるものについて優先順序を付けていくことが必要である。
 - ・猪名川流域と比べると、市街化が進んだ多田地区については解決策を見いだせない状況であるが、木津川であれば対応の可能性が高いと感じる。
 - ・当該地域は、今後地域としても発展していく可能性があることから、災害に強いまちづくりを実践してほしい。
 - ・ため池については、内水対策等が中心になるのではないか。
 - ・遊水地については、むしろ「洪水調整地」といった形で積極的に位置づけ、効率が上がる方向を考えていくことが重要である。
 - ・上野盆地の家屋浸水をなくしていくのが最大の目的であり、このためにどのような仕組みが必要

なのかについて、原点から考えていくことが必要である。

- ・農地を新たな遊水地として活用するためには、土地利用規制や農業側からの対応も重要である。
- ・豊かな自然を、ダムに沈めて良いのかと言うことが、素朴な疑問として感じられた。人間はこれまで、自然のメリットを享受し発展してきたので、今後は自然を大切にすることが必要なのではないか。
- ・猪名川の銀橋狭窄部と比較すると、木津川の方が代替案の効果が出る可能性が高いと感じた。
- ・可能性としてダムを造らないとすれば、放水路が実現すれば最も効果が高いと感じる。
- ・遊水地については私権を無視するものであり、実現のためにはしっかり補償する必要がある。この点は、ため池も同様である。
- ・代替案については、河川管理者サイドで、真剣に検討してもらっていることを感じた。たとえば、新しい遊水地案についても、地図上だけではなく、現地調査を行っていることがよくわかった。
- ・遊水地については、オーソドックスな対応策だと考える。毎年水が入るわけではなく、5～10年に一度であり、自然に対する人間の謙虚な対策であり合理的である。もちろん、地域の合意の上で整備する必要がある。
- ・上野盆地は、川上ダム+遊水地のみで水害を防ぐのは無理である。服部川、柘植川についても積極的な治水対策を行うことが必要である。ダムはやむを得ない場合以外は、造らない方がよい。
- ・川上ダムの予定地は変成岩地帯であり、大滝ダムとは全く異なっている。この点については、ボーリング結果に基づき、わかりやすく説明することが必要である。
- ・桐ヶ丘団地については、地下水位の調査をしっかりとすることが今後求められる。
- ・ダムの検討については、非常に科学的に検討されていることがわかり、これまでのイメージが変わった。
- ・3年ぶりに現地を訪れたが、現在は以前とは異なったステップである代替案の検討を行っているところであり、この時期に図面や文章だけではなく、自分の目で確かめることができたのは、意義のあることだと感じる。

②河川管理者との意見交換

- ・HQ曲線はプロットデータが3つのグループに分かれていることに注意しなくてはならない。また、データに新旧が入り交じっていたり、河道が変わっていると使えないので注意が必要である。←確かに、HQデータについては、2m以下、2m～5m、5m以上の3つのグループに分けることができる。
- ・岩倉峡の流速について、狭窄部の入り口なのか出口なのかを教えてほしい。
- ・もともと上野の低い土地はすべてが遊水地であったわけであり、そこに人が入り始めて災害が発生するようになった。新たな遊水地という考えが、当該地域の関係者から反発を受けることもあり、すべてが遊水地という考えで調整を図っていくことが必要である。
- ・校庭貯留については、周りが水田である学校では効果が期待できない。都市部では効果があると考えられるが、この地域ではどうか。また、学校は避難所になっており、そこに水をためるのは好ましくないと考えられる。
- ・ため池については、集水域を考えると2～3m嵩上げすると言っても、実際にどれだけためられるか疑問である。

- ・休耕田については、少しでも活用して欲しい。
 - ・放水路については、大規模工事はなるべく行うべきではないとの考えに立てば、賛成はできない。
 - ・できれば、川上ダム関連で集めたデータを提供頂き、自分なりにシミュレーションを行ってみたい。
- ←代替案については、今後も精度を上げるように努力したい。また、実効のあるものでなくてはならないことから、関係機関の意見を詳細に聞くことが必要と考えている。
- ←代替案については、中間報告でも示したとおり、今後7つの観点(①効果、②環境への影響、③施設管理者の協力、④用地取得の見通しを含む工期、⑤産業活動への影響、⑥維持管理、⑦コスト)による評価を早急に進める必要があると考えている。次のステップに進めるためにも早く対応したい。
- ・河川にかかわる産業としては漁業が重要であり、漁場の管理が必要である。魚道の遡上率が芳しくないようであるが、全体的に総点検する必要があると考えられる。
 - ・流域にはゴルフ場が多く、沈砂地などを造って降雨を貯留できるようにし、排水抑制は行っているが、数が多いので全体チェックする必要があるのではないか。
 - ・水田貯留も重要であるが、木津川上流では新興住宅地が多く張り付いてきており、これら地域での貯留対策を考えていくことが必要である。
- ←ゴルフ場については、全体のシミュレーションの中で、今後どう反映すればよいか検討していきたい。
- ・木津川上流では、ゴルフ場面積が概ね5～10%を占めると考えられ、この分の流出係数を変えると、シミュレーションにうまく反映出来るのではないかと考えられる。新興住宅地についても、同様であろう。
 - ・ゴルフ場については、猪名川流域では木津川以上に多くの面積を占めており、猪名川における意味はかなり大きくなると考えられる。
 - ・ゴルフ場については、目の敵にするだけでなく、一旦降雨を浸透させる役割を担わせるという考えも必要であろう。
 - ・水田に関しては、畦の嵩上げは農家の理解を得ることは難しいのではないかと考えられる。嵩上げではなく、排水方法を変えることにより、出水を遅らせることも可能である。
 - ・代替案については、過去の洪水時のデータで検討を行っているが、現状の土地利用では出水が早くなっていることも考えられ、それも含めて検討を行ってほしい。
 - ・上野周辺の水田では、ほ場整備が進んでおり、そのために農家も負担し多くの税金もつぎ込まれている。農業関係者との調整は不可避であり、うまくいけば他の地域の参考にもなる。
 - ・農業者は地域の中で弱者であり、これからの治水において、弱者の立場で考えていくことは重要である。
- ←地域の権利を考えていくことは重要であり、遊水地も同様である。昔はすべて遊水地であった地域でも、現在では堤防を造り水がはまらないようにしているわけであり、そこを遊水地とするには、当然地域の理解が必要と考えられる。
- ・代替案の評価について、現状では定量的な説明に徹している感がある。先に触れられた7つの評価軸があるように、他にも評価項目が多くあり、これがいつ提示されるのか気になるし、ワーキングでの検討も進められない。
- ←定量的な評価のみで十分とは考えていない。今日は現地での説明用として定量的な話を中心とさ

- せていただいた。他の評価についてもそれほど遠くない時期に提示し、議論頂けるようにしたい。
- ・可動堰による制御の可能性はどうか。
 - ・たとえ可動堰を造っても、解決はできない。
 - ・川上ダムを建設しても、それだけでは水害はなくならないと考えられ、複合的な対策が重要になると考えられる。
 - ・今日の説明では、利水の問題が置き去りにになっている感がある。
 - ・今日は、治水の話が中心であるので、また別途検討する必要があるだろう。
- ←ワーキングできっちりとした議論を行うためにも、委員間でも意見を確認してもらいたい。
- ・検討課題については、委員会内部で検討してから、河川管理者に投げかけていくことが必要と考えられる。
 - ・今日は現地調査に基づく感想が中心であったので、WGサイドの意見を今後まとめるようにしていきたい。
 - ・代替案がだめな時には、全面的に川上ダムの検討に移ってしまうのか確認したい。
- ←川上ダムを検討する場合でも、これまで検討してきた代替案の中で、効果の高いものと抱き合わせで検討を行っていくこととなる。
- ・評価の方法について、わかりやすくするために、フローやチャートにして示して欲しい。
 - ・川上ダムの利水需要が全くなくなった場合、治水だけでダムを考えていくこともあるのか。
- ←この点については、単に河川管理者のみでは、答えが出せない問題である。
- ←代替案については、当然明らかにだめなものもあると考えられる。このようなものについては、委員会として適切なセッションをいただきたい。そうすることにより、無駄を大幅に省くことができる。できれば、次回のWGの時にでも指摘して欲しい。
- ・代替案もある程度絞りきらないと、きりがなくなってしまう。
- ←現状、幅広で検討を行っており、委員会としてきっちりと絞り込んでほしい。
- ・10月にはWGの意見をまとめていく必要があるので、最終的な検討結果が出ないことを想定して、WGとしての検討を進めて行かざるを得ない。しかし、河川管理者としては、頑張って検討結果をまとめ、WGへの提示をお願いしたい。
- ←河川管理者としては、先に触れられた評価の①～⑦を的確かつ早急に出していくことが重要であると考えている。
- ・今後、WG内部でも、河川管理者との対話時間と同じくらい時間をかけて、検討を行う必要があると考えられる。

以上